＊海童保育園 防災教育チャレンジプラン活動内容＊

＊環境教育を取り入れた防災教育体験学習型プログラムの実践内容＊

４月

浜町ゴミ拾いウォーキング開始／海童保育園エコ・キッズ結成

まず4月ですが、環境問題から防災教育に取組んでいこうと思い、鹿島市役所環境下水道課ふるさと美化係の方にご協力頂いて、汚染地域の写真やパネルを見ながら、環境破壊の恐ろしさについて学びました。
ゴミ分別を体験学習後、ゴミ拾いウォーキングを開始。
現在、月1回、徒歩30分圏内を清掃活動しています。
＊サガテレビのエコキャンペーンのCMにも採用されました。

＊取り組みの結果＊
今では子供達もゴミ拾いに興味を持ち、お散歩中でも道に落ちているゴミを拾うようになりました。
【Point】保育士と一緒に競争してゴミを拾ったり、草取りをするなど、ゲーム感覚で楽しむことが大切です。

５月

浜小学校（避難場所）まで歩く

避難所を確認する為、近くにある浜小学校まで3才以上児（約70名）と歩いて行きました。
佐賀県は台風の目の通り道。近くには河川が多数あり、いつ水害に襲われてもおかしくない場所にあるので、紙芝居などで分かり易く説明しました。

＊取り組みの結果＊
3歳児には話している内容が難しいようでしたが、4歳以上児になると問い掛けにも興味を示し、理解出来るようでした。
小学校を訪問することで交流も深まり、地域ぐるみでの活動が出来きました。
繰り返し体験学習させる事で、さらに迅速に避難が出来ると思います。

5月

佐賀地方気象台出前出張講座

5月には佐賀地方気象台にご協力頂き、お天気の仕組みを園児や地域の人達に分かり易く説明して頂きました。
保育園児への講座は全国的にも例がなく、福岡管区気象台の広報誌にも特集が組まれ、翌々日の佐賀新聞にも大きく取り上げられました。

＊出前講座内容＊

①気象庁ﾏｽｺｯﾄｷｬﾗｸﾀｰ「はれるん」登場＋アニメ上映
②気象庁業務紹介アニメーション上映
③気象情報官　吉武正俊先生による「てんきとぼうさい」
＋クイズ＋質問コーナー
④はれるんと写真撮影及び測器展示、実験

＊取り組みの結果＊

園児達もお天気の事やはれるんくんにとても興味を持ち、参加された保護者、地域の方にも大変勉強になったと大好評でした。
幼少時より取り組む事で、気象や環境について興味や関心を持ち続けてくれればと思います。

6月

武雄消防署及び通信司令センター見学

6月には武雄消防署と九州初の日立ソリュージョンのシステムを使った通信司令センターを見学しました。
通信司令センターでは、自分達の保育園を人工衛星から見せてもらう等、最新の通報から出動まで流れを詳しく説明して頂きました。
消防署では、消防車･はしご車･救急車･レスキュー車をそれぞれ説明してもらい、車の中や装備等を実際に見学させて頂きました。

＊取り組みの結果＊

災害時に地元の消防署がどのような仕事をされているのかを間近で見学でき、子供達も興味深々で聞いていました。
引率した職員もとても勉強になりました。

6月

森の教室

お泊り保育を兼ねて、NPO法人ビックリーフの吉村先生をお招きし、環境保全の観点から実際に森の中を散策。森や木の根の大切さについて教えてもらいました。このような体験は都会ではなかなか出来ないことでもあり、幼少時より自然に親しむことは発育にとても重要な事だと思いました。
その後、ラミネーターを使って、葉っぱで葉っぱマンを作りました。
最後に温暖化防止の為、どんぐりの木を植樹しました。
この体験を機に子供達が大人になっても環境保全に興味を持ち続け、豊かな自然が残ることを期待しています。

＊取り組みの結果＊

森の中で子供達はどこにそんな元気があるのかといわんばかりに虫探しやカニ探しに夢中でした。
温暖化等の難しい内容については、理解できない事も多いので、まずは身近な事を体験させることが必要だと思いました。
小学校までに虫に触れないと、一生、虫嫌いになるそうですが、虫は自然界をつかさどる生き物です。害虫として扱うのではなく、自然を守る生き物だということを学んで欲しいと思いました。
これからも毎年、自然に触れる機会を作っていきたいと思います。

8月

福岡市民防災センター親子研修＆福岡タワー見学

防災についての知識を深めてもらおうと福岡市民防災センターで親子研修をしました。まずは火災体験。中は迷路状になっていて、非常灯しか見えない中では、煙の恐怖と出口が分からない不安感で一杯になりました。
次に地震体験。震度5と7を体験し、震度7では体が浮いてしまう程の大揺れの中、机の下に隠れる訓練をしました。強風体験では、風速30Mを体験。息苦しさを感じながら下を向いて立っているのがやっとでした。
次に福岡タワーでは、高さ123mから西方沖地震の震源地を見学。福岡タワーは支柱を岩盤の奥深くまで埋め立てている為、地震による影響はなかったそうですが、タワー周辺では、埋立地特有の液状化現象が多く見られたそうです。

＊取り組みの結果＊

参加された保護者の方も子供達とともに真剣に取組んでいました。どの体験も想像以上に恐怖感や不安感があり、体験終了後、「怖かった」と殆どの方が言われていました。
この体験を機に防災についての関心度や知識向上を図る事が出来ました。今後、突然の災害にも慌てることなく冷静に対応が出来ることを期待しています。
このような体験学習型の研修は、想像以上に迫力があり、防災教育を進めていく上で、とても重要だと感じました。このような親子体験学習型の防災教育を毎年企画していきたいと思います。

＊9/1防災の日の内閣府広報誌「Cabiネット」に
8月の避難訓練及び消火訓練の様子が掲載されました。

11月

防火の呼びかけ＆防火パレード

11月の火災予防週間には防火の呼びかけをしながら、銀行や郵便局等に折鶴や標語を渡しました。
また近くにある佐賀銀行前では、さらに多くの地域の方に防火に関心を持ってもらおうとに防火パレードを行いました。

＊取り組みの結果＊

子供達の可愛らしい掛け声とハッピ姿に通りすがりの人々も足を止めて演奏などを聞かれていました。保護者はもとより、地域の方にも大変喜ばれ、これからもこの活動を続けていきたいと思います。

ペットボトルで水難訓練

浜町は数多く河川に囲まれているので、水害時対策として水難訓練をしました。今回は空のペットボトルを胸に抱き、体を浮かせる訓練。
最初は力が入り、沈んでしまう子もいましたが、要領を覚えてくるうちに上手に浮くことが出来るようになりました。

＊取り組みの結果＊

いざという時に身近にあるもので、大切な命が守られる事を知りました。これからも他の訓練も体験学習していきたいと思います。

11月

ぼうさい探検及び防災マップ作り

今回、防災教育チャレンジプランに参加にさせて頂くにあたり、日本損害協会から防災マップ作成依頼を受けました。
保育園児のみでの作成は全国で初めてという事で、ぼうさい探検当日、鹿島市の桑原市長の表敬訪問を受けました。

【水害対策用の防災マップを作成】
①避難場所（高台にある公民館など）
②有明海の干潮・満潮時の浜川の水位差を観察
③ヨモギの葉での応急処置の仕方を体験学習
④井戸の場所
⑤防火設備の場所
⑥派出所でこども110番について教えてもらう

＊取り組みの結果＊

小学生に比べ、文字の読み書きが困難なので、子供達が見て分かり易いように写真やイラストを多く使った防災マップを作成しました。探検終了後、家族に「大雨の時は○○公民館に逃げるんだよ。」と教えてあげた子どももいたそうです。
防災知識の有無で、命を守るということに大きな差が出てくる事を改めて感じました。

エコキャンドル・ペットボトルツリー作り

エコとリサイクルに興味を持ってもらおうをエコキャンドルとペットボトルツリーを作りました。
エコキャンドルは日頃、捨ててしまう家庭の廃油を利用して作りました。クレヨンで色づけしたキャンドルはクリスマスの時に初点灯。小さい炎が揺らめき、とても綺麗でした。
ペットボトルツリーは高さ170センチほど。2リットルのペットボトルを150個使いました。12月の生活発表会の作品展に展示し、ライトを灯すととても幻想的でした。

＊取り組みの結果＊

2つの作品を作った子供達の表情はとても生き生きとしていました。日頃、ゴミとして扱われるペットボトルや廃油がリサイクルされ、変身する事にとても感動しました。私達の身の回りのゴミをもう一度見直し、今後もリサイクル活動を続けていきたいと思います。

12月

地球にいいこと大発見

佐賀県地球温暖化防止活動推進センターの高木先生をお招きして、地球温暖化について子供達に分かり易く説明して頂きました。

【プログラム内容】

①地球って知ってる？
　2個のビニール製の地球儀を使って、元気な地球とそうでない地球（少し空気を抜いておく）を見せて、元気な地球にするためにはどうすればいいかを皆で考える。

②ひらがなでごあいさつ！
　ひらがなフリップを使って、先生や物の名前の最初のひらがな当てゲームをする。

③えこっぱかるたであそぼう！
　えこっぱかるた（環境教育かるた）を使って、環境について学ぶ。

④絵本の読み聞かせ（ペルルとのおやくそく）
　絵本を読んで、皆で決めごとを作り、その約束を守るよう伝える。

＊取り組みの結果＊

地球温暖化という難しい内容を視覚的効果やゲームを使って、とても分かり易く教えて頂きました。子供から職員までとても楽しく参加出来ました。環境ゲームも120種類ほどあり、その内の12種類のゲームを年に数回教えて頂けるそうなので、これからも積極的に保育に取り入れていきたいと思います。

釜戸でご飯を炊いてみよう

災害時電気が使えないことを想定し、釜戸でご飯を炊きました。子供達にとっては初めての体験で、火が勢い良く燃え出した時には歓声が上がりました。途中、煙が目に入り、痛みを訴える子どももいましたが、30分後、出来上がったご飯を食べて皆笑顔でした。炊き立てのご飯は本当に美味しく、「またやってみたい」と子供達も意欲的でした。

＊取り組みの結果＊

防災教育で色々な活動をしてきましたが、ここで防災･環境･食育が一つの繋がりを見せ始めました。

本当に昔の人は質素で無駄が無く、現代の私達の生活が豊かになり、自然への感謝の心を忘れた為に、環境破壊が進み、災害が増えてきたのだと思いました。

1月

いのちについての講演会

いのちの大切さを親子で考えてもらおうと若草保育園の中岡健雄先生をお招きして講演会を開催しました。
まず命と心は体のどの位置にあるのかを子供達に問い掛け、目に見えないけれども、とても大切である事を教えて頂きました。
次にパネルシアター。家族の死をテーマに極楽の意味を教えて頂き、大切な人が亡くなったら、どういう気持ちになるのかを考えました。
最後に「いのちのまつり」という本を読んで頂き、いのちは多くの人から受け継がれていることを知りました。また名前を呼ぶ事、親子の絆や母親の愛情についても子供にとってとてもかけがえのないものである事を教えて頂きました。

＊取り組みの結果＊

保育園・幼稚園は仏教を中心とした法人が経営されている事に着目。子供達がいのちの大切さや善悪の判断の出来る子どもに育って欲しいと思い、企画しました。将来、どんな困難にぶつかったとしても命を大切にし、困っている人を助けられるような人に育つよう心の教育を続けていきたいと思います。

2月

変身の術（リサイクルについて）

佐賀県地球温暖化防止活動推進センターの高木先生をお招きして、リサイクルについて学びました。
ビン・空き缶（アルミ・スチール）・新聞紙・ペットボトル・プラスチック容器を用意し、この資源がリサイクルされたら何になるのかを学びました。
子供達に問いかけて、正解すると魔法の杖が教えてくれるので、正解するたびに子供達から歓声が上がりました。
ビンはビンにしか変身出来ないけれども、新聞紙はトイレットペーパーなどに大きく変身する事を学びました。
最後に各家庭より集まった古着や古本を恵まれない国の人々に送りました。

＊取り組みの結果＊

ゴミが資源として活用されている事を学習し、ゴミに対する見方が大きく変わりました。実際に見ながら教えて頂いたので、とても分かり易く、楽しんで参加することが出来ました。

2月

ゲームでかんがえてみよう
～みのまわりのかんきょうとあんぜん～

慶應義塾大学吉川肇子先生の講演会（2/1 10:00～11:30）

防災や環境について将来を担う子供達に学習してもらおうと慶應義塾大学の吉川先生をお招きして講演会を開催しました。
講演会の呼びかけに市内小学校2校と保育園7ヶ園にご参加頂き、300名のホールはすぐに満席になりました。

【講演会内容】

①防災ダック
　災害などが起こった時の初期動作について体験学習。

②ドイツとスイスの安全ゲーム
　身の回りの危険についてクイズ形式で学習。
　（知らない人から声をかけられたら、誰かに助けを求めるなど）

③環境について考える
　もし地球が300人だったらと仮定し、世界中の人がどのような暮らしをしているのかを学習。その後、フィリピンの生活事情を教えて頂きました。
　また買い物をするときはエコバックを持って、簡易包装・地元産を選び、環境に優しいグリーンコンシューマーになるよう指導。
　最後にドラえもんのどこでもドアがあれば、輸送エネルギーが減り、温暖化防止にも繋がるので、子供達に将来、科学者になって開発してくれる事を期待してますと伝えられました。

④防災・環境ゲームの紹介
　展示ブースで防災すごろくなどを展示し、各小学校や保育園に直に説明して頂きました。

＊取り組みの結果＊

子供達の集中力と理解力を考慮して頂き、大変素晴らしい講演会でした。パワーポイントの資料もイラストを多く取り入れ、園児でも読めるよう平仮名とカタカタで作って頂いたので、とても分かり易く、子供達も楽しんで参加する事が出来ました。この講演会を機に子供達が常に防災や環境を考える人に育つ事を期待しています。また各校・園の指導者側の意識改革へとも繋がり、この輪がさらに広がっていくような取組を続けていきたいと思います。

＊講演会の内容がサガテレビで放映後、佐賀新聞にも掲載され、現在、佐賀県庁HP子供向けサイトにも掲載予定です。

以上で、4月からの活動内容についての報告を終わります。
＊その他、ぼうさいダックによる指導や毎月の避難訓練の様子は省略しています。